

2023年6月期 決算説明資料

2023年8月14日

サイジニア株式会社

証券コード:6031



目次

サマリー

1. 2023年6月期業績
2. 2024年6月期業績予想
3. 参考資料



エグゼクティブ・サマリー

1

2023年6月期は、ネット広告サービスの低迷で売上高は減収・未達だが、CX改善サービスの好調で営業利益は計画通り、実質大幅増益で着地

2

業績低迷のネット広告サービスから撤退を決断、今後はCX改善サービスに集中

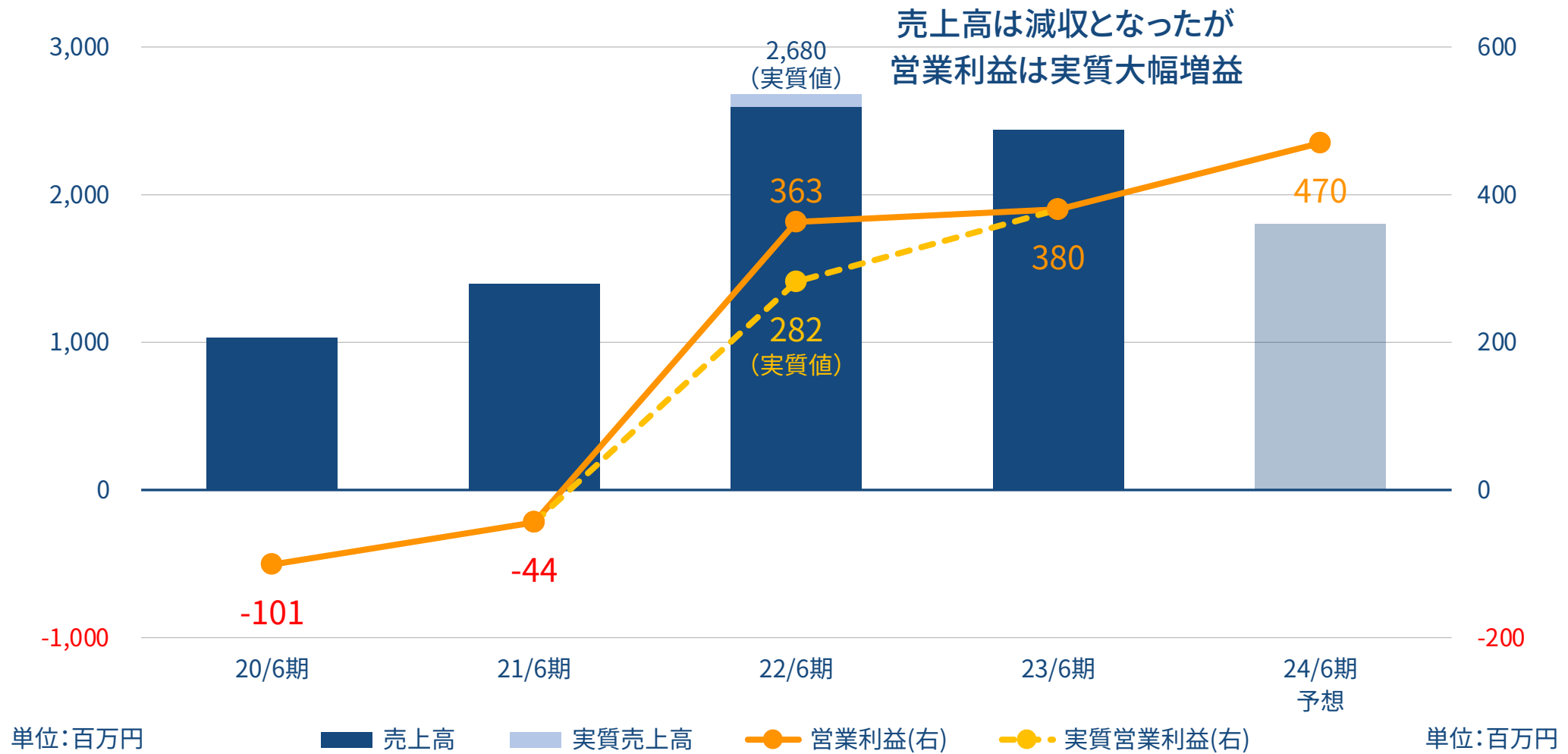
3

今後大きくマーケットが拡大することが期待されるリテールメディア向け広告市場にも進出

4

24年6月期はネット広告撤退で減収となるも、CX改善サービスの好調で連続大幅増益を見込む

グループの業績推移



※実質値は、通期比較をするために、連結されていなかったZETA 22/5期1Qを加味した数値

目次

サマリー

1. 2023年6月期業績

2. 2024年6月期業績予想

3. 参考資料



営業利益は実質34.9%増

(a)連結業績

単位:百万円

	22/6期4Q※1	23/6期4Q	増加率(%)	増加幅
売上高	2,595	2,437	-6.1	-158
営業利益	363	380	4.7	17
経常利益	354	376	6.1	21
当期純利益	-1,146	260	-	1,407

※1 22/6期1Qに減損損失1,450百万円発生

(b)ZETA業績

単位:百万円

	22/5期1Q	23/5期1Q	増加率(%)	増加幅
売上高	84	140	65.2	55
営業利益	-81	-38	-	42
経常利益	-83	-40	-	43
当期純利益	-98	-44	-	53

(c)実質連結業績

単位:百万円

	22/6期4Q※2,※3	23/6期4Q	増加率(%)	増加幅
売上高	2,680	2,437	-9.1	-243
営業利益	282	380	34.9	98
経常利益	271	376	38.7	104
当期純利益	-1,244	260	-120.9	1,505

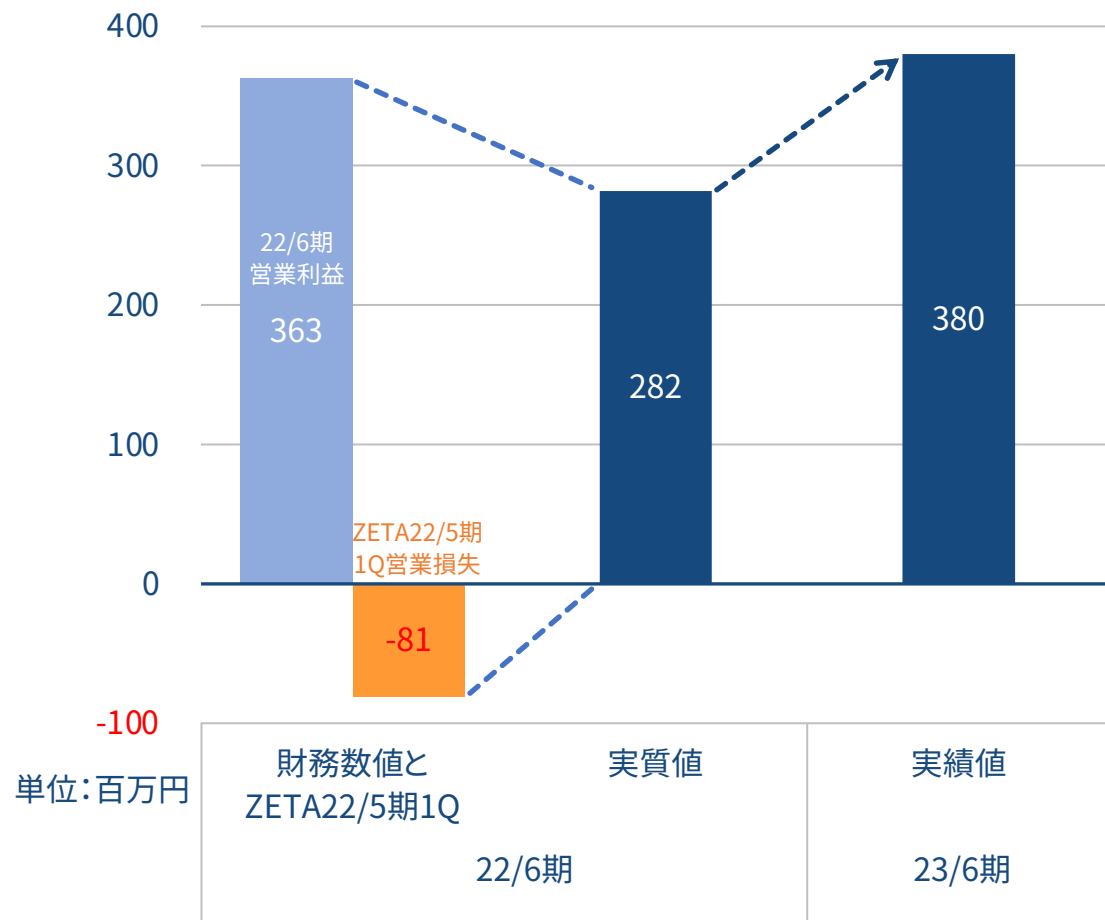
※2 22/6期3Qに減損損失1,450百万円発生

※3 (a)+(b):ZETA22/5期1Qを単純合算

減収も実質的には前期比大幅増益

- 前期のZETA業績の連結期間による見かけ上の低成長、およびネット広告サービスの苦戦
- 非連結のZETA前期1Q業績を加味した実質営業利益は34.9%の大幅増益
- 前期に発生した特別損失がなくなり、当期純利益は正常化、実質15億円の利益改善

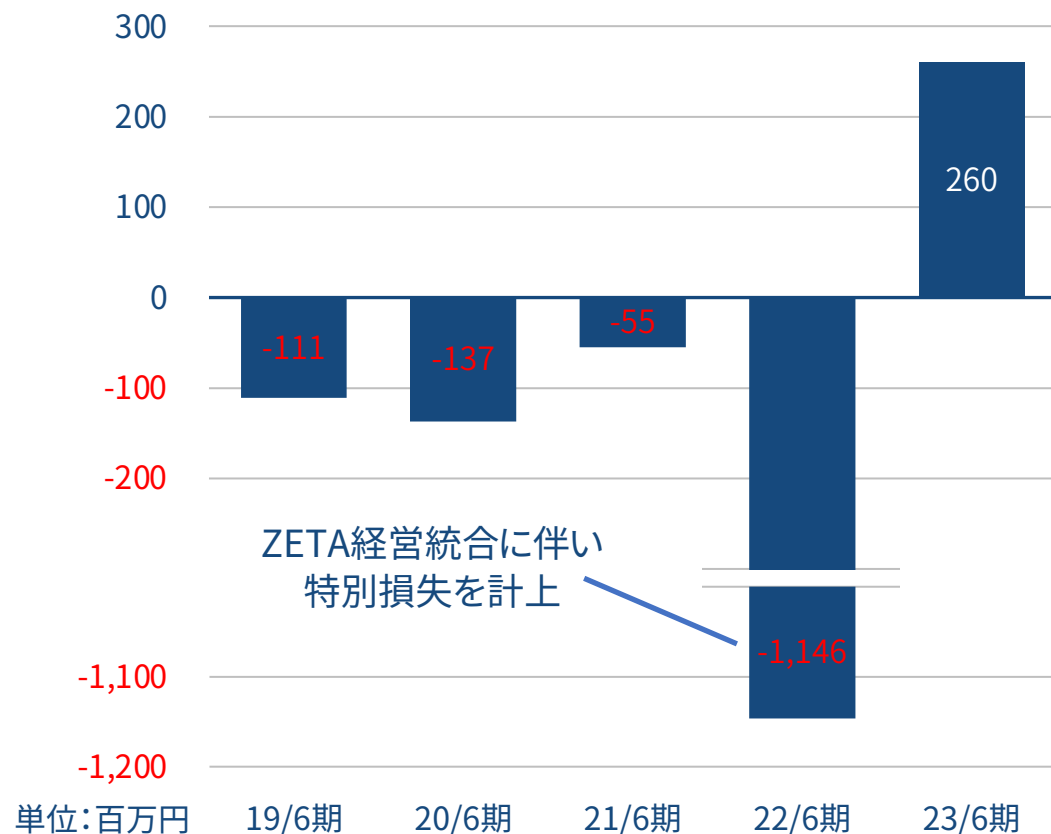
営業利益は実質大幅増益



実質大幅増益の要因

- ZETA統合が22/6期2Qからとなったため、ZETAの前期1Q営業損失は22/6期の営業利益に連結されていない
- 22/6期の実質営業利益は、ZETAの22/5期1Qの営業損失を加えた282百万円となる
- 23/6期の営業利益は380百万円であるので、実質的に34.9%の大幅営業増益となった

当期純利益は黒字転換、正常化



22年6月期当期損失はのれんの一時減損が要因

- 当期純損失が続いていたが、収益性の高いCX改善サービスへのシフトを進めてきた
- 22/6期はZETAとの経営統合により構造改革を本格化し、営業利益は黒字転換できたが、統合に伴うのれん減損14.4億円を特別損失に計上したため大幅な最終赤字に
- 23/6期はネット広告サービス不振だったが、ZETAとの統合効果及び特別損失消滅により上場時以来の最終黒字を計上

営業利益は期初予想通り着地

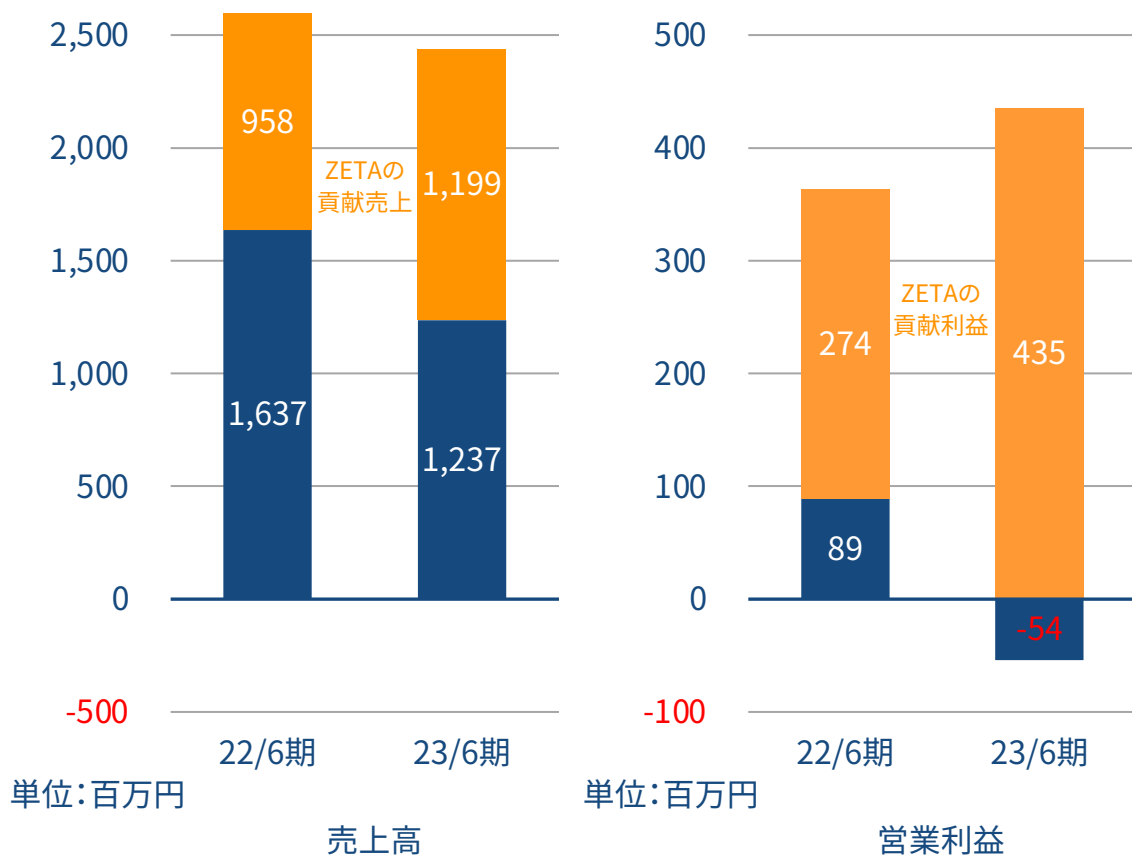
単位:百万円

	23/6期 期初予想	23/6期 実績	増加率 (%)	増加幅
売上高	2,800	2,437	-12.9	-362
営業利益	370	380	2.9	10
経常利益	360	376	4.6	16
当期純利益	250	260	4.2	10

期初予想比売上高は未達

- ネット広告サービスの不振が期初の予想より大きかったが、CX改善サービスへのシフトが順調に推移したため利益は目標を達成
- 利益率が低いが売上規模が大きいネット広告サービスの不振により売上は未達
- 経営テーマに掲げた粗利益率の向上は大きく目標を超えて達成

コア事業のスイッチ



コアコンピタンス変更が奏功

- CX改善サービスをコアとする高成長高収益のZETAは、粗利率重視戦略や新サービス投入が奏功し大きく収益を伸ばした
- ネット広告サービスの収益は環境要因および競争激化により低迷した
- CX改善サービスとネット広告サービスの収益力格差が足もとで拡大、CX改善が収益を牽引

ZETAの23年5月期業績

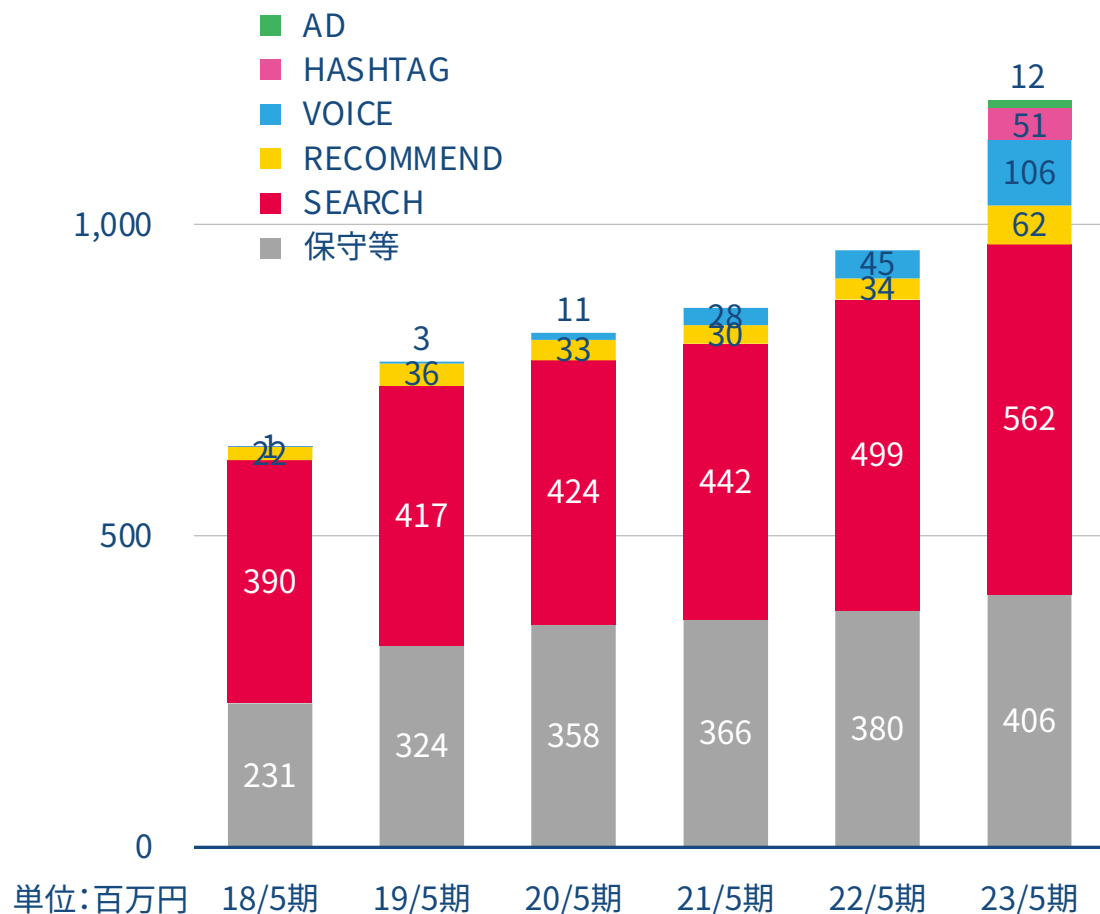
単位:百万円

	22/5期	23/5期	増加率 (%)	増加幅
売上高	958	1,199	25.2	241
営業利益	274	435	58.8	161

ZETA好業績の要因

- ZETAは期初の業績予想を大きく超えて着地
- 増益要因は、クロスセルやアップセルの加速、新製品投入の早期の利益貢献など
- 国内有数のECサイトに多数採用されるなど、デジタルマーケティング市場における存在感が急速に拡大
- 導入事例がさらなる事例へと繋がる好循環

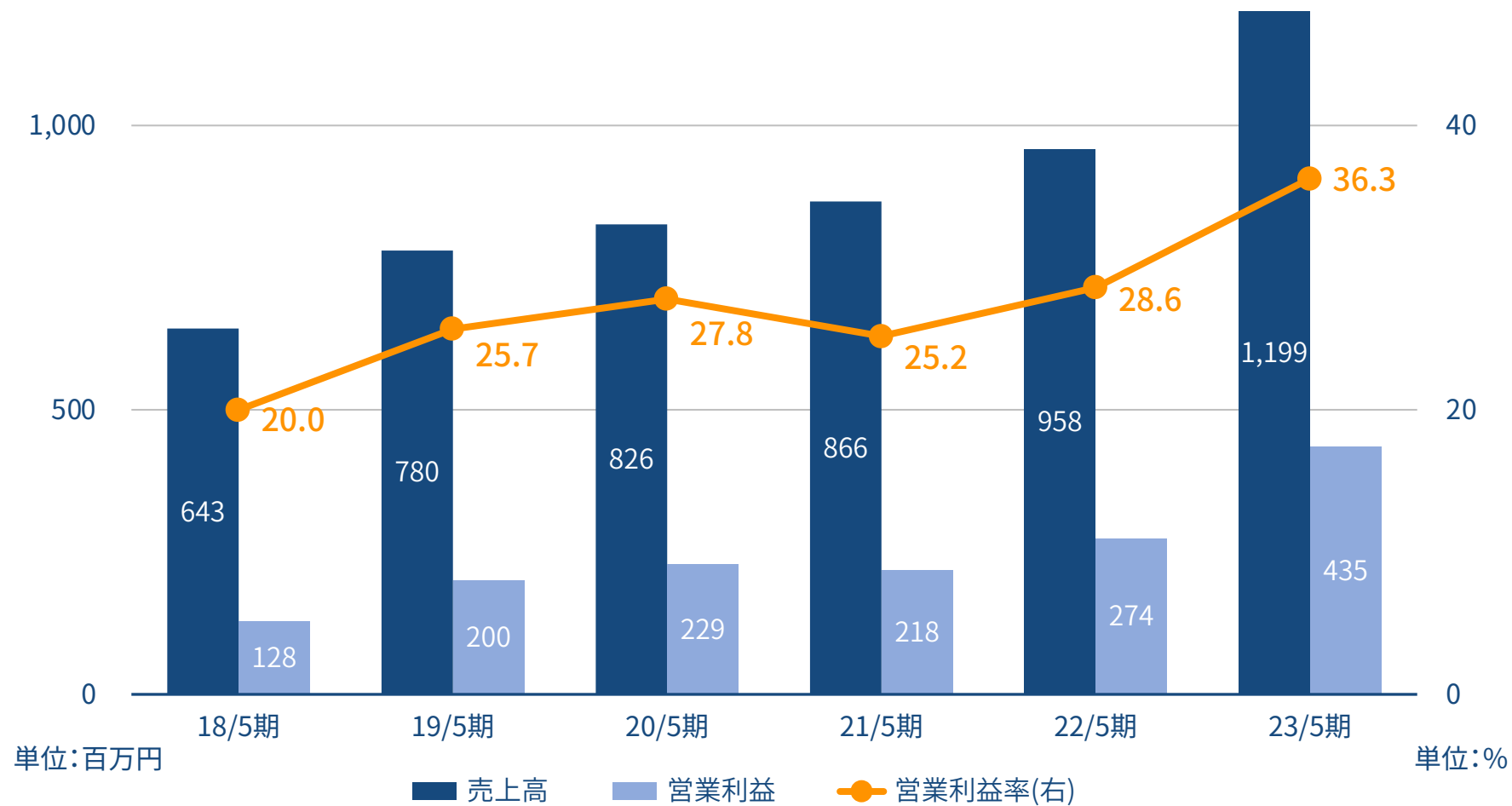
ZETA製品売上高の推移



「ZETA CXシリーズ」がZETAのけん引役

- 「ZETA CXシリーズ」の主軸である商品検索エンジンZETA SEARCHが着実に伸びている
- ZETA VOICEなどシリーズの他製品へのクロスセル、アップセルも加速
- 前期に開始したハッシュタグソリューションZETA HASHTAGが早期に利益貢献

長期成長トレンドにあるZETA



※21/5期の営業利益率の低下は積極採用及びコロナ禍の影響

2023年6月期損益計算書

単位:百万円

	22/6期	売上比(%)	23/6期	売上比(%)	増加率(%)
売上高	2,595	100.0	2,437	100.0	-6.1
売上総利益	1,119	43.1	1,293	53.1	15.6
販売費及び一般管理費	755	29.1	912	37.5	20.9
営業利益	363	14.0	380	15.6	4.7
営業外損益	-8	-0.3	-4	-0.2	-
経常利益	354	13.7	376	15.4	6.1
特別損益	-1,443	-55.6	-15	-0.6	-
税引前当期純利益	-1,088	-41.9	360	14.8	黒転
法人税等	57	2.2	100	4.1	74.4
当期純利益	-1,146	-44.2	260	10.7	黒転

2023年6月期貸借対照表

単位:百万円

	22/6期	23/6期	増減
流動資産	2,257	1,828	-428
現金及び預金	1,749	1,166	-582
固定資産	828	751	-76
のれん	4	4	-0
顧客関連資産	719	635	-84
繰延資産	8	14	6
資産合計	3,093	2,595	-498
流動負債	681	730	49
固定負債	891	1,063	171
負債合計	1,573	1,794	220
純資産合計	1,520	801	-718
負債純資産合計	3,093	2,595	-498

目次

サマリー

1. 2023年6月期業績

2. 2024年6月期業績予想

3. 参考資料

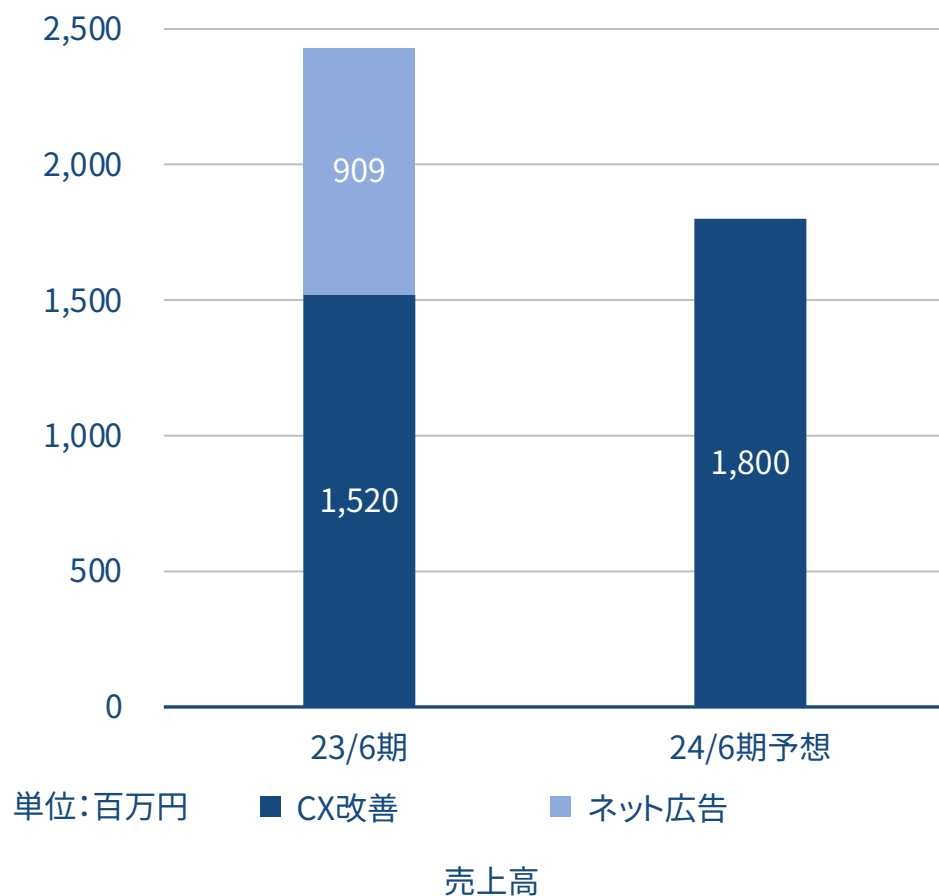


減収ながら大幅増益を予想

単位:百万円

	23/6期	24/6期予想	増加率(%)	増加幅
売上高	2,437	1,800	-26.2	-637
営業利益	380	470	23.4	89
営業利益率	15.6	26.1	-	10.5
経常利益	376	455	20.9	78
当期純利益	260	270	3.6	9

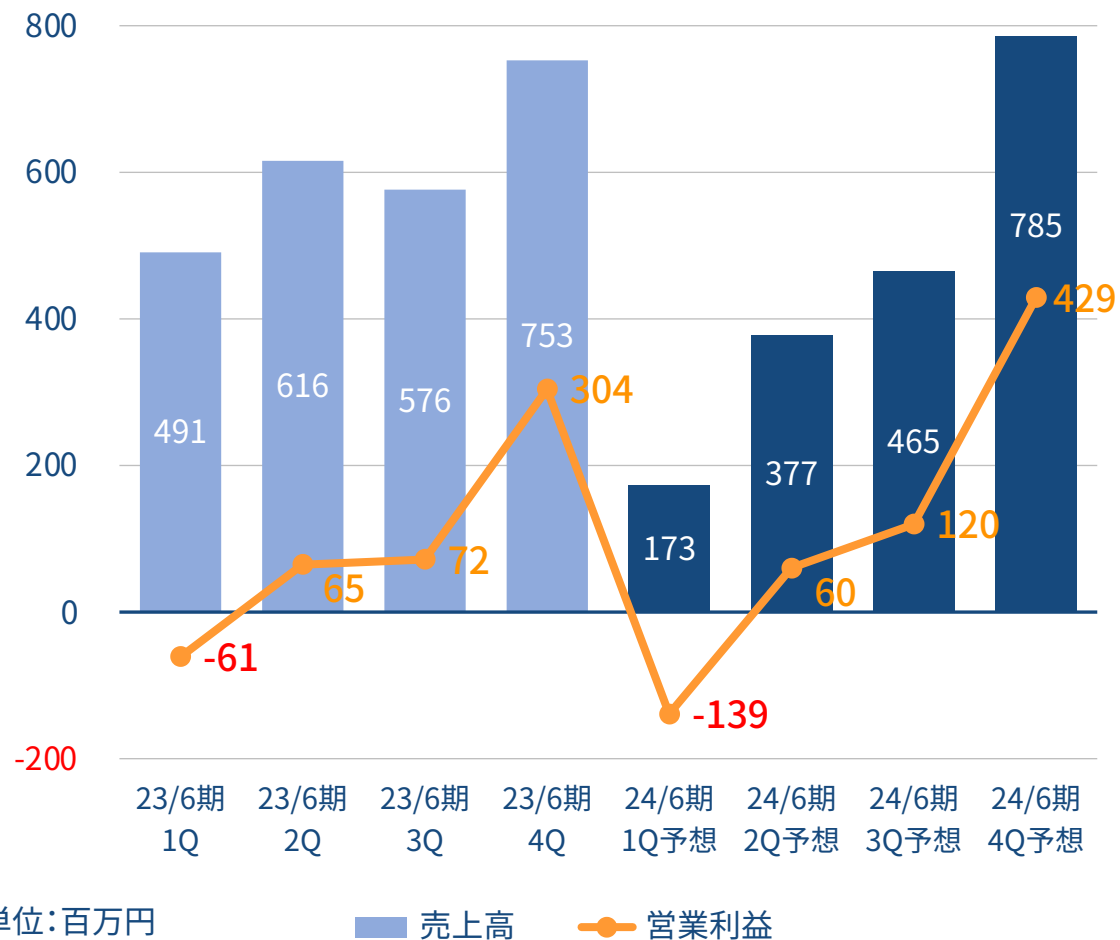
単一セグメントとなったCX改善サービスがけん引



ポイント

- ネット広告サービス撤退は約9億円の減収、CX改善サービスは約2.8億円の増収要因
- トータル売上高は一時的に減少となる予想
- 不透明な市場環境のネット広告サービスから撤退し、着実に成長を見込むCX改善サービスへのシフトは、経営環境としてはプラス要因

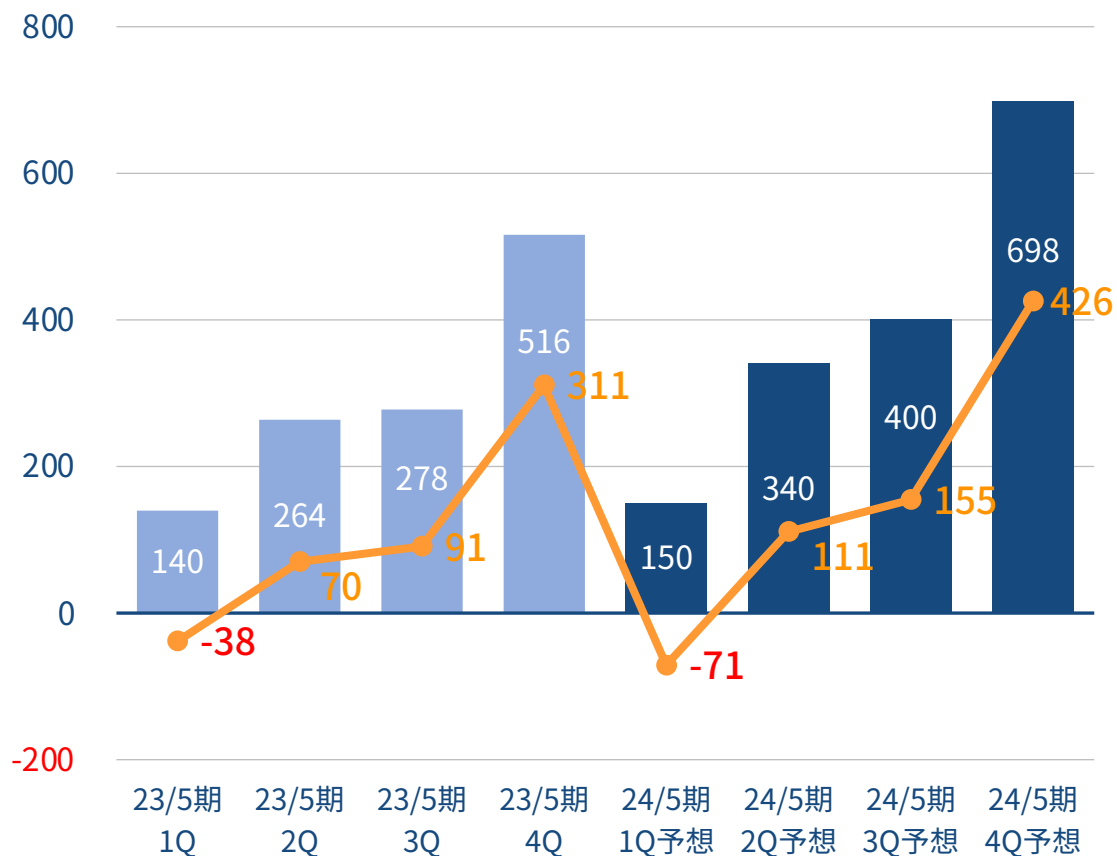
連結四半期業績の推移(実績と予想)



ポイント

- ZETAは通常、1Qが費用先行期となるため、24/6期1Qも営業損失予想
- 売上はネット広告サービスからの撤退により、一時的に減収の見込み
- 収益の大部分がZETAとなるため、4Q偏重傾向は拡大するが通期では大幅増益となる予想
- 来期以降で決算期を1～12月とすることを検討しており、グループの決算期を統一し、上半期での業績の達成率の向上を狙う

ZETA四半期業績推移(管理会計ベース予想)



単位:百万円

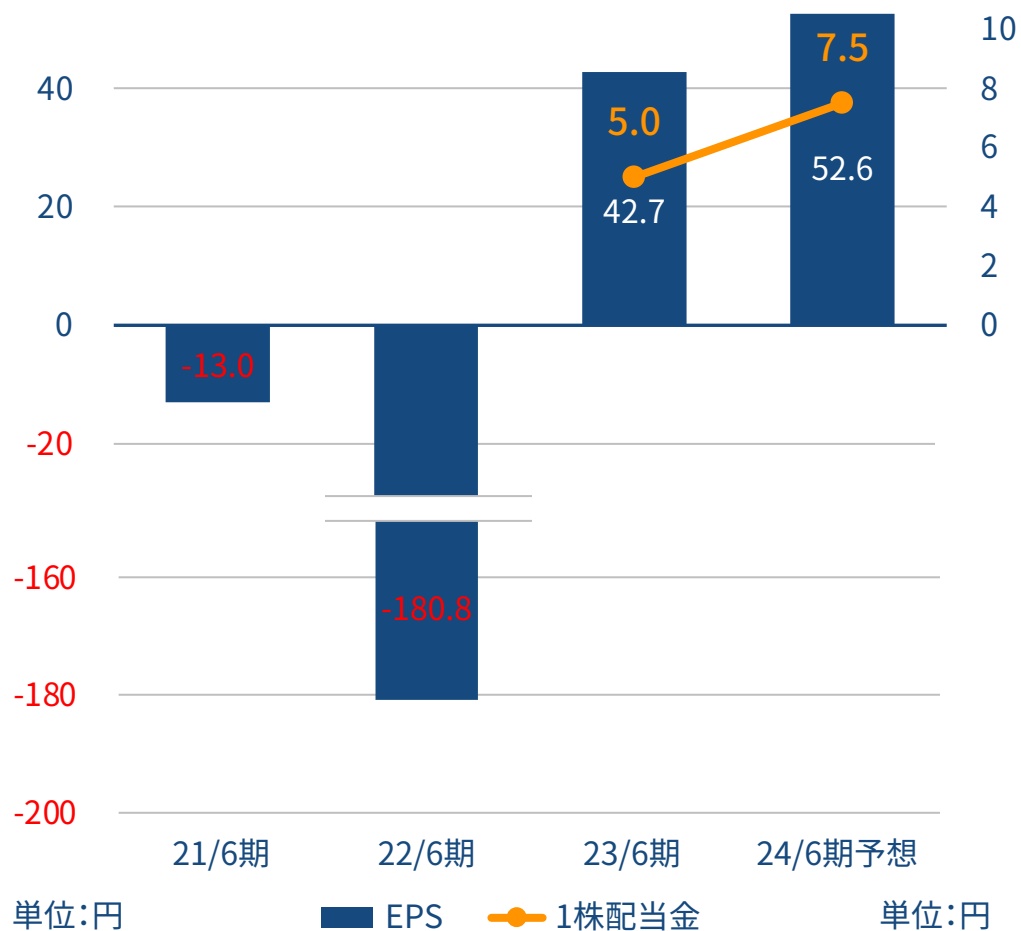
■ 売上高

—●— 営業利益

ポイント

- 例年通りZETAの1Qは費用先行期であるため、24/5期1Qも営業損失となる予定
- 1Q自体の赤字は前期比で拡大するが、これは事業規模の拡大によるものなので懸念要因とはならない
- 2Q以降で着実に利益を計上し、増益基調を継続する見込み

株主還元の強化を継続

EPSも
向上

ストック型収益のCX改善サービスに
フォーカスすることで、EPSが安定して
成長する局面となってきた

増配継続
の方針

前期の初配当に引き続き、株主還元を
強化、24年6月期の1株あたりの配当金
は2.5円増配の7.5円を予定

目次

サマリー

1. 2023年6月期業績
2. 2024年6月期業績予想
- 3. 参考資料**



商号 サイジニア株式会社(Scigineer Inc.)

本社所在地 東京都港区浜松町1-22-5 KDX浜松町センタービル7F

代表者 吉井 伸一郎

設立年月日 2005年8月15日

資本金 77,166千円(2023年6月末現在)

子会社 ZETA株式会社 / デクワス株式会社 / 株式会社サイジニアアドバンスド研究所

決算期 6月

役員構成	代表取締役会長COO	吉井 伸一郎	常勤監査役	吉澤 伸幸
	取締役社長CEO	山崎 徳之	監査役	浅海 直樹
	取締役執行役員	宮村 忠良	監査役	柳瀬 典由
	社外取締役	北城 恪太郎		

経営・執行体制

吉井 伸一郎 代表取締役会長COO(工学博士)

- 1996年4月 日本学術振興会 特別研究員(DC)
- 1999年4月 日本学術振興会 特別研究員(PD)
- 2001年8月 ソフトバンク・コマース株式会社(現ソフトバンク)
情報システム本部 技術担当課長
- 2002年4月 同社情報システム本部 技術部 研究開発センター長
- 2003年4月 ソフトバンクBB株式会社(現ソフトバンク) 技術本部マネージャー
- 2004年4月 北海道大学大学院 情報科学研究科 複雑系工学講座・助教授
- 2007年4月 当社 代表取締役社長
- 2021年7月 当社 代表取締役会長(現任)



山崎 徳之 取締役社長CEO

- 1995年4月 デジタルテクノロジー株式会社入社
- 1996年11月 株式会社アスキー入社
- 1997年10月 ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社入社
- 2000年5月 株式会社オン・ザ・エッジ入社
- 2001年12月 同社取締役
- 2006年2月 同社(株式会社ライブドア)代表取締役
- 2006年6月 ZETA株式会社創業 代表取締役(現任)
- 2021年7月 当社 取締役社長(現任)



宮村 忠良 取締役

- 1971年4月 日本アイ・ビー・エム株式会社入社
- 1999年12月 同社取締役兼金融システム事業部長
- 2004年3月 同社常務執行役員兼金融第二事業部長
- 2009年4月 JBエンタープライズソリューション株式会社 代表取締役社長
- 2009年6月 JBCCホールディングス株式会社 取締役
- 2012年4月 JBCC株式会社 取締役会長
- 2013年4月 アドバンスト・アプリケーション株式会社 代表取締役社長
- 2016年9月 当社顧問
- 2018年9月 当社取締役(現任)
- 2020年3月 デクワス株式会社 取締役(現任)

北城 恪太郎 社外取締役

- 1967年4月 日本アイ・ビー・エム株式会社入社
- 1993年1月 同社代表取締役社長
- 1999年12月 IBMアジア・パシフィック プレジデント
- 2003年4月 経済同友会 代表幹事
- 2007年4月 経済同友会 終身幹事
- 2007年5月 日本アイ・ビー・エム株式会社 最高顧問
- 2009年4月 当社取締役(現任)
- 2010年6月 学校法人国際基督教大学 理事長
- 2012年5月 日本アイ・ビー・エム株式会社 相談役
- 2017年4月 日本アイ・ビー・エム株式会社 名誉相談役(現任)



IRに関するお問い合わせ

ir@scigineer.com

免責事項

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。

これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、必ずしも既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。